



2006 ~ 2007 年度
R I テーマ

LEAD THE WAY 率先しよう

国際ロータリー会長 ウィリアム B. ボイド (国籍・ニュージーランド)

2720 地区

別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12 時 30 分
ところ トキ八別府店 7 F ぼたんの間
TEL 23-1111
事務所 別府市西野口町 1 番 1 号 青山通りビル 3F
〒 874-0931 TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
http://www.beppu4rc.jp/chuo/
E-mail:info@beppu4rc.jp

理事	鳴海淳郎	理事	後藤 隆	役員	会 長	上妻 浩	S A A	木村きぬ系
"	村津忠久	"	葉真寺章三		副会長	森 宗明	直前会長	平野英壽
"	溝部 仁				幹 事	近藤賢司		
"	梅津ヤヨイ				会 計	上妻 浩		

VOL . 19 - 12
2006 年 9 月 26 日

第 837 回 例 会

会報委員長 津末美代子

点 鐘 12 : 30
体 操 自律神経強化体操
R S 我等の生業
唱 歌 故郷の空
B. G. M 「宗次郎こころのうた」より
誰もいない海
「いちご白書」をもう一度
翼をください 他
ビジター 石川 浩 (高松南 R C)

出席報告 委員長 後藤 孝弘

本日 の 出 席	会 員 総 数	25 名
	出 席 者	18 名
	事前メイクアップ	2 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	1 名
出 席	欠 席 数	4 名
	出 席 率	75 %
前 々 回 の 訂 正	出 席 率	87.50 %
	事後メイクアップ	1 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	1 名
	9/12 修 正 出 席 率	100 %

連 続 1 回
通 算 714 回 100 %

・メイクアップ

事前 河村 (別府北) 椛田 (別府東)
事後 小川 (別府北)
欠席 木村、小川、津末、高田

会長の時間 会長 上妻 浩

9 月 20 日、会長・幹事会が開催されました。それに先立って別府地区ロータリー事務局の寺山さんの退職に伴う補充の面接を会長 4 名 (牧野会長欠席のため幹事代行) で行いました。応募者が 12 名もいたため時間もかかりましたが、事務局の今村さんの意見も参考にして坂東弥恵 (バンドウミエ) さんを採用することになりました。会長・幹事会は玉ノ井ガバナー、明石ガバナー補佐と地区大会実行委員長の前岡氏も参加しての地区大会の準備の打ち合わせでした。10 月 10 日までは参加メンバーや細かいスケジュールもほぼ決定するそうです。10 月 4 日の合同例会もその準備がテーマになります。我クラブはゲストのお迎えやご案内を担当することになっています。先日の理事役員会で韓国からのゲストの福岡でのお迎えが問題になりましたが、運転手付きの貸切りバスを利用するのは当然とのことでした。お迎えの日やゲストの人数も 10 月 10 日頃には決まる予定だそうです。

幹事報告

幹事 近藤 賢司

- 新世代のための月間 -

1. 本日の卓話
『決断力』 後藤孝弘会員
2. 9 月の例会にて「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金箱をお願いしましたところ益金 10,616 円となりました。ご協力ありがとうございました。



3. 9月20日(水) 14:00~ ホテル白菊・ボードルームに於いて「別府市内RC合同事務局新規採用面接選考会」が実施され、引き続き15:00~「第4回別府市内4RC会長・幹事会」が開催されました。

出席者: 上妻 浩会長、近藤賢司幹事

4. 9月23日(土・祝) 10:30~ 城島後楽園カントリークラブに於いて「別府中央RC親睦ゴルフ大会」を開催し、同日18:30~ 食欲気分について「表彰式」を行いました。

参加者: 上妻 浩、後藤孝弘、後藤 隆、平野英壽、亀井 孝、河村貴雄、森 宗明、高田由子、赤嶺リサ(表彰式のみ)、近藤賢司 各会員

優勝: 近藤賢司会員 準優勝: 亀井 孝会員
 第3位: 河村貴雄会員 第5位: 高田由子会員
 B.B: 後藤 隆会員
 ドラゴン賞: 近藤賢司、亀井 孝 各会員
 ニアピン賞: 平野英壽、後藤孝弘、森 宗明、近藤賢司 各会員

5. 例会変更のお知らせ

大分1985RC 10月2日(月)の例会は、職場訪問例会の為 同日12:30~ iichikoグランシアタに場所変更

大分中央RC 10月4日(水)の例会は、職場例会の為 同日12:30~ 大分リコー(株)に場所変更

佐伯RC 10月11日(水)の例会は、職場訪問例会の為 同日12:30~ 西田厚徳病院に場所変更

別府東RC 10月12日(木)の例会は、定款第5条第1節(C)に基づき休会

大分東RC 10月12日(木)の例会は、野外家族例会の為 10月15日(日) 12:00~ 福岡・アサヒビール園に日時・場所変更

6. 次週の予定

『地区大会に向けての市内4RC合同例会』

* 開催日・場所を変更して、10月4日(水) 12:30~ ビーコンプラザ「国際会議室」に於いて開催致します。お間違えのない様ご注意ください。

「会員コラム」 木村きぬ糸会員
 (* 原稿をお願い致します。)

7. 本日の回覧

大分県産婦人科医会より

「おぎゃー献金運動」募金箱
 「職業活動表彰及び職場例会」
 (10月24日例会) 出・欠席
 くにさきRC 週報

8. 本日の配布

ガバナー月信9月号

ガバナー月信綴り

週報836号

「成功の起源(The genesis of success)」

鳴海淳郎R情報委員長

スマイルボックス 委員長 吉富 今男

上妻会長

後藤孝弘会員、先日のゴルフは同じ組で大変楽しくプレイ出来ました。本日の卓話よろしくお祈いします。

近藤会員

先日のゴルフ大会で優勝することができました。ただ採点方法がダブルペリア方式だった為、運が半分以上あり本当にラッキーでした。残念だったのは上妻会長で、タイガーでもアイチャンでも到底できないような地を這っていくショットでバーディをとったのに、そして見ていた人が全員目を疑うようなバーディだったのに、唯一人、賞品にありつけなかったことでした。

溝部会員

今週末「別府七湯乃記」ワーキンググループの結成が本学園で開催します。事務局の川野君のお父様もその一人です。ある程度、進行しましたら皆様に御紹介し、一緒に別府発展の為に御協力下さい。

村津会員

やっと秋晴れの毎日を迎え幸せです。

一気登山道を利用しての学校遠足は、今のところ、10月6日に鶴見丘高校、10月18日に明星小学校が登山します。気持ちよく歩いて頂く為の、倒木処理と草刈りを10月1日から4日の間に実行する予定です。

好天と無事を祈ってスマイル。

葉真寺会員

先週、急に要件が入り欠席いたしました。お詫びのスマイルいたします。

追伸、「財界九州」の今月号に「ゆめさき」大島会員が取り上げられていました。お知らせします。



平野会員

先日24日、ここトキハセンターモールにてピリヤード九州レディースオープン決勝大会が盛大に行われました。菓真寺店長には開会のごあいさつもしていただき、会場を提供もしていただき、大変ありがとうございました。又、森会員や事務局の寺山さんなど応援ありがとうございます。来年は国体のデモスポの企画もしております。又、みなさんの御支援よろしく。

大島会員

後藤会員の卓話と近藤幹事のゴルフ優勝にスマイル。

森会員

亀井会員のコラムに思わず納得、さすがです。

後藤孝弘会員の卓話楽しみです。

後藤(隆)会員

今日は後藤孝弘さんの卓話です。夜酔ってお話ししているのを聞く機会はよくあるのですが、お昼間、孝弘さんが何をお話しされるのかとても興味があります。とても楽しみにしています。

後藤(孝)会員

今日は卓話です！以上

衛藤会員

高原の能楽堂に色なき風

先日、湯布院の夜能に行ってきました。もうすっかり秋でした。9月の例会も今日で終わりですね。早いものです。私も入会させて頂いて3年になりました。今後共よろしく。

今日は石川様、御遠方よりようこそお越し下さいました。どうぞごゆっくりなさって下さいませ。

赤嶺会員

本日は高松南ロータリークラブの石川様、ようこそおいで下さいました。ゆっくり楽しんで下さい。そして、先日の火事、大変でしたね。近火お見舞い申し上げます。

高宮会員

今朝の地震にはビックリしましたネ!!四国松山と市内の娘にメールで無事を確認しました。本日の後藤孝弘会員の卓話を楽しみにしています。

亀井会員

ゴルフ親睦会おつかれ様でした。久しぶりに会長の“愛の園”も聞けて大変楽しかったです。

吉富会員

近藤幹事、ゴルフ大会優勝おめでとございます。

後藤孝弘会員の卓話、頑張ってください。

委員会報告

社会奉仕委員長 村津 忠久

11月3日(金、祝)に予定されていた「もみじ谷奉仕作業」は、自衛隊の演習の都合で、11月19日(日)に変更させて頂きますので、よろしくお願い申し上げます。

卓話

後藤 孝弘

決断力

現在、最強の棋士と言われる羽生善治氏。1970(昭和45)年、埼玉県に生まれた同士は、6歳で将棋を覚え、小学6年のときにプロ棋士養成機関である奨励会に入会。中学3年で4段に昇格し、プロ棋士となった。

89(平成元)年、19歳のときに初タイトル「竜王」を獲得し、94(平成6)年には9段昇格。96(平成8)年には「王将」「名人」「竜王」「棋聖」「王位」「王座」「棋王」の7大タイトルをすべて独占し、「将棋界始めて依頼の7冠達成」を果たし話題となった。タイトル戦登場75回。タイトル獲得合計60期。まさに、天才棋士である。

棋風はオールラウンドで幅広い戦法を使いこなし、終盤に繰り出す妙手は、“羽生マジック”とよばれ、多くのファンを魅了している。

同士は、本書「はじめ」で次のように語っている。
『将棋は自分との孤独な戦いである。追い込まれた状況からいかに抜け出すか。追い込まれるということはどうゆうことが、でも、人間は本当に追い詰められた経験をしなければダメだということもわかった。逆にいうと、追い詰められた場所にこそ、大きな飛躍があるのだ。』

将棋では、勝負が決するまでに、だいたい百数十手かかる。その間、対局中には流れがあり、それは人為的に支配できるものではないと言う。

そして、その流れは何度か変わる。当然、対局中に自分が不利な状況に陥るときもある。そんなとき羽生氏は、どう対処するのか。

『私は、人間には二通りあると思っている。不利な状況を喜べる人間と、喜べない人間だ。将棋界にも最初からピンチを招こうと思っている人はいないが、ピンチに陥って奮い立ち、知恵を出せる人と怯んでしまう人がいる。プロの棋士は勝負師だから圧倒的に前者が多いが、それでも、形勢が不利になると気持ちが落ち込んでしまう。

落ち込むと、目や心が曇ってしまう。私は「こうなっては相手に勝てないだろう」と考えることはあまりしない。相手の棋風や出方を考えてしまうと、邪心が入ってしまう。それでは「策士、策におぼれる」である。あくまで、冷静に自分のペースを守ることから手が見えてくる。「手が見える」は、プロ棋士でやっていくために重要なことだ。』

誰しも、さまざまな場面で、自分が不利な立場に置かれるときはある。そうしたときに、羽生氏のように考えることができれば、うまくピンチを脱することができるのではないだろうか。

将棋の歴史は長い。現在のよう形になったのは、およそ14~15世紀ごろ。しかし、きちん



と体系づけて考えられるようになったのは、ここ20年ほどだと、羽生氏は語る。コンピュータの出現と時期を同じくして、将棋そのものが急激に進化したのである。

将棋には「定跡」というものがある。簡単に言うと「この場所まで行くには、こんな道がありますよ」と示してくれる戦略のロードマップのことだ。それが、コンピュータの出現により、情報として飛躍的に整備されるようになり、誰でも簡単に、戦法や戦型の知識を得ることが可能になった。言わば、将棋のIT化である。

しかし羽生氏は、「定跡」をただ覚えるだけでは、実践ではほとんど役に立たないと述べる。そこに自分なりのアイデアや判断をつけ加え、より高いレベルに昇華させる必要がある。

要するに、「知識」を「知恵」に変えるわけだ。『つまり、何かを「覚える」、それ自体が勉強になるのではなく、それを理解しマスターし、自家薬籠中のものにする...その過程が最も大事なことです。それは他人の将棋を見ているだけでは、わからないし、自分のものにはできない。自分が実際にやってみると、「ああ、こういうことだったのか」と理解できる。理解できたというのは非常に大きな手応えになる。なによりうれしい。そして、新しい発見があるとまた頑張ろうと、フレッシュな気持ちになれる。』

情報化社会に生きる現代人は、膨大な量の情報に踊らされがちである。そこから、いかに自分に必要な情報を取捨選択し自家薬籠中のものにするかは、将棋の世界に限らず大事なことであろう。

羽生氏は、これはすべてにあてはまる「思考の原点」だと結んでいる。

「将棋を指すうえで、一番の決め手になるのは何か？」と問われれば羽生氏は「決断力」と答えるそうだ。

将棋は、どんなに机上で研究しても実践は、“別もの”だと語る。必ず、自分が考え及ばない手を対戦相手に指され、それに対応しなければならぬ。一手ごとに、その場その場で決断を下すわけだ。「この手で間違いない」と確信をもって指しているわけではなく、ある意味、漠然と指しているのである。そしてまた、相手に思ってもいない手を指され、それに対して「こうじゃないか」と

決断する。予測がむずかしい中でこうした決断を繰り返していくのが、対局のプロセスである。

将棋には、一つの局面に80ほどの指し手の候補があると、羽生氏は述べる。その中から一つを選択するわけだが、まず77や78は、これまでの経験から不必要と判断して捨て去る。そして、残った「これがよさそうだ」という候補を2つか3つに絞る。絞った手に対して、頭の中の将棋盤で駒を動かしてみる。

それぞれの手について「どれが一番正しいか」目的のルートまで「こうなって、ああなって...」と綿密に検証する。3つの手に対して、その先にそれぞれ3つの候補があれば、9つになる。そうやって、どんどん枝分かれしていくので、すぐに300手、400手となってしまふ。どこまで検証すればいいのかわからない基準があるわけではないので、ある程度のところまで思考を打ち切り、決断する。

つまり、プロ棋士でも先のすべての展開を見通して、一手一手を指しているわけではない。だからこそ対局中の決断の一つひとつが勝負を分けるのである。

羽生氏は、決断することは非常にむずかしいとしながらも、次のように語っている。

『経験を積み重ねていくと、さまざまな角度から判断ができるようになる。たとえば、以前に経験したのと同じような局面に遭遇したときには、「あのときはこう対処してうまくいった」「こういう失敗をしたから、今度はやめておこう」などと、判断材料や内容が増え、たくさん視点から決断を下すことができるようになる。』

しかし、判断のための情報が増えるほど正しい判断ができるようになるかということ、必ずしもそうはいかない。私はそこに将棋の面白さの一つがあると思っているが、経験によって考える材料が増え、逆に、迷ったり、心配したり、怖いという気持ちが働き、思考の迷路にはまってしまう。

将棋にかぎらず、考える力というのはそういうものだろう。何事であれ、一直線に進むものではない。私は、将棋を通して、そういう人間の本質に迫ることができればいいな、と思っている。』

最強棋士として、数々の修羅場をくぐり抜けてきた羽生氏の言葉は、人生のさまざまな場面で役立つに違いない。

会員コラム

河村 貴雄

ディズニーランドのリピーター

東京のディズニーランドは毎年1千万人以上の人々が訪れます。繁栄の裏にはいろいろな要因がありますが、その中の一つは園内がきれいなことだと思います。

ディズニーランドのマニュアルに園内を赤ちゃんがハイハイしてもいいように清掃しなさいとあります。

我が家の子供達が小さい頃、園内で食べていたポップコーンが強風に袋ごと飛ばされ、そこらあたりに散乱したことがありました。その時、どこからともなく白い制服を身にまとった若いスタッフが現れ、柄の長い箒でさっさささとみごとにポップコーンを片づけていきました。その動

きは見ている人達を楽しませる可成訓練されたパフォーマンスでもありました。

また、ディズニーランドでは従業員の人間をキャストと呼び、働く場所のすべて(バックヤードも含めて)をステージといっています。

客が帰った後、夜の園内で清掃が始まると、便器の一つ一つに名前をつけ「太郎、きょうも一日お疲れさん」と語りかけながら、寒い冬の日でも若いキャストは自信とプライドを持ってお客様に喜んで頂く為に陰の働きに取り組んでいます。

ゲストも誰も見ていないステージでキャストが最高に演じきっているのです。リピーターの心を動かす原点がそんなところにあると思われます。

今回は、木村きぬ系会員です。